

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		令和8年度第1回福津市教育懇話会
開 催 日 時		令和8年5月21日(木) 午後 6時00分から 午後 8時00分まで
開 催 場 所		福津市役所 別館1階大ホールAB
委 員 名		(1)出席委員：伊藤 克治、春田 久美子、吉住 美津子、児島 由美、増井 久美子、安德 尊博、中山 真一、久壽 真一 (2)欠席委員：木本 圭子
所 管 課 職 員 職 氏 名		薄教育長、宮原教育部長、原尻理事兼主幹指導主事、佐々木教育総務課長、波多野新設小学校準備室長、藤岡新設小学校準備室参事兼主任指導主事兼新設小学校準備係長、石井学校教育課長、芹野郷育推進課長、寺島文化財課長、鶴口主幹兼指導主事、千原指導主事兼教育指導係長、内兼久総務企画係長、古沢主事
会	議 題 (内 容)	・福津市教育総合計画(教育振興基本計画)の策定について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	1人
議	資 料 の 名 称	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度福津市教育懇話会(第1回)当日要項 ・資料① 諮問書 ・資料② 次期計画策定スケジュール ・資料③ 次期計画の名称について ・資料④ 次期計画の基本目標(案) ・資料⑤ 次期計画策定に向けた施策の体系 ・参考資料① 第2期福津市教育総合計画の構成 ・参考資料② 第2期福津市教育総合計画の施策体系 ・参考資料③ 新教育大綱の概要
会 議 録 の 作 成 方 針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録

	<input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項	
審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
<p>1. 開会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委嘱状交付 （薄教育長より吉住委員へ委嘱状を交付） ・ 挨拶 （薄教育長より挨拶） ・ 日程について （佐々木課長より説明） <p>2. 諮問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福津市教育総合計画（教育振興基本計画）の策定について （薄教育長より伊藤会長へ諮問書を交付） ・ 挨拶 （伊藤会長より挨拶） <p>3. 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明及び意見交換 （佐々木課長より資料を用いて説明） <p>（伊藤会長） 資料②スケジュールについて確認したい。 諮問では、10月までに答申することとなっているので、10月の第4回会議では、答申案の微修正と最終確認をすることになる。9月の第3回会議では、方針案を概ね完成する予定で進める。そのため、7月の第2回会議では、特に議論を進めていかなければならない。</p> <p>本日は、事務局から説明された計画の全体構造、計画の名称、基本目標を決めていきたい。木本委員が欠席のため、正式決定とはできないが、ある程度の方向性を決めて、残りの時間で、基本目標に向けた基本方針、施策項目との繋がりを可能な範囲で広く様々な立場から意見いただき、議論を拡散して、色々な視点を共有できればと考える。</p> <p>7月の第2回会議では、本日の意見を絞りながら整えていく作業を進めたい。 よろしいか。</p>	

(委員)

はい。

(伊藤会長)

資料③計画の名称について事務局に説明をお願いします。

(原尻理事より資料③を用いて説明)

(伊藤会長)

「総合」は、広く捉えられるため外す、「振興」を付けるが、国の教育振興基本計画という名称にすると全く同じになってしまうので、国が作った基本的なものをより具体化するという意味で「基本」は付けないということで、「福津市教育振興計画」という事務局案であった。

事務局案に対してどうか。

(吉住委員)

「振興」の後ろに「計画」と続くことに違和感がある。

「振興計画」を「振興プラン」とするのはどうか。

(伊藤会長)

「振興計画」では、漢字が続くことになる。

「計画」又は「プラン」にすることで、内容は同じものではあるが、感じ方が変わると思う。

(久壽委員)

どちらでも結構である。

(児島委員)

「プラン」の方がよいと思う。

受け止め方がやわらかであることと、福津市学校教育ドリームプランにも続くことができる。

(伊藤会長)

福津市学校教育ドリームプランの名称を変更する予定はあるか。

(原尻理事)

基本的には、変更しない予定であるが、まだ正式には決まっていない。

(伊藤会長)

教育振興プランがあり、それを具体化する学校教育ドリームプランということで、繋がり、見た目がよい。

(吉住委員)

本来は、教育振興を進めていく上での「基本計画」であるべきかと思うが、基本の方針に限らず、具体的な施策も盛り込むという意図もあって「基本」を付けないとするの

であれば、「計画」より「プラン」とする方が具体的で、受け止め方としても、捉えやすいのではないかと。

「計画」は、置いてあるもの、「プラン」は、実働のイメージがあり、福津市での地域と共にみんなで創る教育という理念からも「振興プラン」とするのがよいのではないかと。

(伊藤会長)

「計画」はあまり実効性を感じないが、「プラン」というと実効性を感じる。

(久壽委員)

「プラン」としてよいのではないかと。

(児島委員)

調べると、「プラン」は、何をしたいか、目的やアイデアを決め、それを実現するための方法と手順を練るのが「計画」であるということであった。「計画」は、「プラン」を具体化する作業と書いてあるので、「プラン」の方が上位概念で、より全体的なアイデアや企画、方針ということであると思う。

(原尻理事)

行政計画で「推進計画」というものもあり、「振興計画」と「推進計画」のすみ分けを調べると、一番大きな計画として国が理念を示す振興基本計画があり、その下に都道府県などが出す振興基本計画があり、それを実際に推し進める「推進計画」が、実働ものとしてあるということであった。

「推進計画」としては、さらに学校単位や、地域、社会教育に携わる方などが具体的に考えるスポーツ推進計画、生涯学習推進計画などがある。

それらを束ねる、教育全体を統括する計画として「教育振興計画」とするという事務局案であったが、教育全般を広く見るということで「教育振興プラン」とし、その下に計画が並ぶという考え方もできるかと考える。

(伊藤会長)

今回策定する計画と、これから郷育推進会議で策定する生涯学習推進計画の関係は、横並びか。

(原尻理事)

第2期教育総合計画の9ページにあるように、教育総合計画が統括的な位置にあり、そこに繋がる形で、スポーツ推進計画や生涯学習推進計画、学校教育ドリームプランがある。

(伊藤会長)

考え方や意見を一通り出していただいた上で、計画の名称は、「総合」を外し、「教育振興計画」又は「教育振興プラン」とするかは、次回、木本委員も含めて最終決定するという事よろしいか。

(委員)

はい。

(伊藤会長)

資料④計画の基本目標について、事務局案が7つある。

内容としては、すべて同じであると思うが、目標が市民の方へより伝わる書き方としてどの表現がよいかを今日ある程度絞り、次回、最終決定したいと考える。

(久壽委員)

一般企業において、具体的な数値、成果でない目標にしてはいけないという経験がある。

今回策定された教育大綱は、色々なことが書いてあり、わかりやすくなっているが、基本目標の「共創・共育・郷生」は目標ではなく、目指す姿であると捉えている。

4つの重点施策こそが目標になるべきで、それぞれに数値などの指標を設定することでP D C Aが回るのではないかと思う。

(伊藤会長)

教育では、アウトプット評価、アウトカム評価が難しい部分がある。

各学校で決める学校教育目標は、基本的に子どもの姿で設定する。そのような姿になったかを評価するのは中々難しいので、学校教育目標の下に必ず重点目標をつけ、達成したか毎年P D C Aで回していく仕組みになっていると思う。

計画の基本目標は、こういうものを目指そうという姿で表し、その下の重点目標は、教育大綱から引っ張ってきて、達成可能な目標という位置付けよりは、目指す理想的な姿で書いてある。

その下の各施策項目で、毎年、達成したか教育委員会で自己点検し、外部の有識者の意見を添えて評価するという仕組みになってくるのが実態であるかと思われる。

(久壽委員)

具体的に活動レベルに落とし込まないと書いただけの目標になってしまうのではないか。目標をしっかりと決め、P D C Aの一番大事なアクション、評価して次の改善をどうするかを繰り返していかないと良くなっていかないのではないかと思う。

(伊藤会長)

基本的に教育の世界で、具体的に達成評価、成果評価でP D C Aを回すのは学校単位で、各学校の子どもや地域、家庭の実態に合わせた学校教育目標があり、P D C Aを回しながら学校長は、毎年、重点目標を見直していると思われる。

学校単位でのP D C Aサイクルなので、上位計画で縛ってしまうと学校の実態に合わないことをしないといけない危険性が出てくる。

福津市教育委員会は市全体で目指すところがあり、到達するために各学校で学校教育目標、重点目標を設置してP D C Aで回しているのが実態かと思う。

ただし、具体的な要素を書かなくていいわけでもないなので、施策によっては達成評価だけでなく、それによりもたらされた成果も自己点検評価報告書で書いた方がよいなど助言している。

(春田委員)

どの話をしているかわからなくなってきたので整理したい。

教育懇話会では、教育大綱について話すのか。

(伊藤会長)

教育懇話会では、教育大綱ではなく、教育大綱の2ページに記載されている第3期教育総合計画について審議する。

(春田委員)

次期計画を策定するにあたり、教育大綱が大事になってくるかと思うが、これらの関係性はどうか。

(伊藤会長)

教育大綱の2ページにある図が関係性を示している。

策定された教育大綱については、この教育懇話会で意見して変えることはできない。教育大綱の内容を具体化するための次期計画について審議するものである。計画は、教育大綱と直結しているので、教育大綱と外れたものを入れることはできない。

資料⑤の一番左にある4つの重点目標は、教育大綱の柱と直結しており、基本的にここは変えることができない。

教育懇話会で特に議論したい部分は、4つの重点目標に繋がる基本方針と施策項目である。

(春田委員)

資料⑤の中央部分は飛ばすのか。

(伊藤会長)

表の中央にある白枠は、国の第4期教育振興基本計画や、現在改訂中の次期学習指導要領の論定整理の内容、こども大綱や子どもの権利条約など、事務局が施策項目を配置した根拠となるものである。次期学習指導要領は、昨年9月に論点整理が出ており、今年度中には中央教育審議会から最終答申が出され、来年度に告示される予定である。

これらの根拠の元、施策項目を配置し、それが基本方針に繋がり、重点目標の達成になるのではないかという事務局のたたき台である。

これについて、追加したり、方針のまとめ方を整理したり、統合したり、内容を変えりした方がよいのではないかという議論を重ねていきたい。

(児島委員)

教育大綱では、4つの重点施策と書いてあり、同じ内容について、次期計画では、重点目標と書いてある。混乱を招きやすいので、揃えられないか。

(伊藤会長)

教育大綱と同じ様にして、計画の表の一番左に4つの重点施策と書くと、施策の前提は何かとなってしまふ。

次期計画は、教育大綱に示された施策を実行する計画で、より解像度を上げて具体化していく必要があると考える。そのため、教育大綱の施策に直結しておかなければならないので、計画では重点目標とせざるを得ないと思う。

児島委員の懸念を解消する方法として、教育大綱の施策を同じ様に計画の重点目標とするが、その表現を変える方法もある。

(春田委員)

計画の名称について、「プラン」か、「計画」のどちらがよいかという議論をしているが、そことの関連性はどうか。

(伊藤会長)

計画の名称がどちらであっても、内容や考えることは同じであるので、見え方や受け取り方、伝わり方を気にすればよいと思う。

(久壽委員)

資料④基本目標の事務局案7つのうち、教育大綱に基づけば、「共創・共育・郷生」とある案1、案2がよいのではないか。

(伊藤会長)

同じく、基本目標は、案1か案2になるかと思う。

基本目標なので、抽象化するが、伝えたいことはしっかり伝えられるようにしないとイケない。

なるべく短い文でとなれば、案1がよいのではないか。

(久壽委員)

基本目標の次に重点目標がきており、目標が連続しているがどうか。

(伊藤会長)

分かりにくいとは思いますが、自治体の計画は、どうしても、国から下りてきて、階層がたくさんあるので、そうならざるを得ないと思う。

(久壽委員)

企業では、売上と利益の世界で、最初の始まりがおかしいと全社員が一致せず、目的や目標がわからなくなってしまうので、目標は、数字で表し、評価してきた。

自治体ではこのようにまた違う形で目標を設置することを把握した。

(児島委員)

案1は、「育むまち」、案2は、「学び」とあり、今回は教育計画であるため「学び」にしたいと思い、案2に惹かれた。

(春田委員)

直感的に案2がよいと思った。

「福津の学び」というところに惹かれており、福津の教育は、こういうものというのが、読み手に伝わりやすいのではないか。

(吉住委員)

福津の教育をみんなで創っていくことを表すということで、案2の方がよいのではないか。

(久壽委員)

案2がよいと思う。

(中山委員)

案2がよいと思う。

案1の「未来の創り手」は、子ども限定のイメージがある。子どもも大人も共にとな

ると案2がよいと思う。

(増井委員)

「郷生」はきょうせいと読むが、「郷育」はごういくと読むこともあり、案7の「郷に生きる」という部分がよいと思った。

「共創・共育・郷生」は、案7にある「子どもも大人も共に創り、共に育ち・育て、そして郷に生きる」とするとわかりやすいのではないか。

最初に決まり文句があり、その後に、サブタイトルで、これはこういうことだよというのがあると市民は、わかりやすいと思う。

「福津の学び」のフレーズがあるとよいと思う。

(伊藤会長)

「郷生」については、方針と施策との関係性でわかるような整理をすることで、メインとサブタイトルは、案2でよいということか。

(増井委員)

案2がよい。

(安徳委員)

第2期教育総合計画では、メインのタイトルとサブタイトルがある。

読み手へ単刀直入に伝わるよう案1のように「共創・共育・郷生」とした方がわかりやすいと思う。

市民など万人的に読みやすいのは、柔らかい文章がメインにあり、サブタイトルで伝えたいポイントを表す案2がよいと思う。子どもも大人も関係なくみんなでという共への言葉が良いなと思う。

(伊藤会長)

木本委員へは次回確認することとなるが、案2にほぼ決定ということで良いか。

(委員)

はい。

(伊藤会長)

資料⑤について、重点目標は、教育大綱から引っ張ってきており、それを目指していくための基本方針、この方針でいくための施策項目の案がある。白桦は、国の計画など関連するものである。

基本方針、施策項目を議論して決めていくことが、この教育懇話会で一番重要なところである。本日の会議では、決めてしまうのではなく、議論を拡散し、共有したいと思うので、様々な立場から、必要なもの、いらぬもの、統合した方がわかりやすいものなど意見をお願いしたい。

資料⑤の中では、中央にある次期学習指導要領の論点整理を重視しないといけないと思う。次期学習指導要領では、簡潔にいうと、「多様な子どもたちの『深い学び』を確かなものに」というところが重視されている。そうなるために、色々な内容が挙げられているが、この中で福津市で不可能なものはないのではないかと思う。

福津市は、他市に比べ、子どもが急増している状況もあるため、教育環境の確保という観点でも意見をいただきたい。

また、多様な子どもたちの深い学びを確かなものにするには、当事者の子どもも含め、先生、保護者、地域、自治体など、みんなでやるんだと示されており、学びの質を上げることが、次期学習指導要領の肝になる。

福津市では、コミュニティ・スクールの推進を重ねてきたことで他の自治体のお手本になるような取組みがたくさんあり、それを深い学びまでしていくことが、PDCAで目標達成を示すことにも繋がるのではないかと。

こんなことを大事にすることが深い学びになるのではないかと、多様な子どもたちの学びの機会を提供できるかなどといった観点を大事にしたい。

感想や質問など何かあるか。

(増井委員)

インクルーシブは、どういう意味か。

(原尻理事)

多様な子どもたちを別々で育てるのではなく、同じような環境の中で育てていくことを大きな目標として捉えることである。

個に応じて必要な手当もあるが、それで終わってしまうと、個で育てることになる。多様な子どもたちが集う場、学校でいうと、健常な子どもたちが過ごす教室と、支援が必要な特別支援学級があり、別々で学習した方が効果が高い部分もあるが、みんなが集まった場所で育てることで、学びがより深まることもあるという概念がインクルーシブ教育である。

(伊藤会長)

学校教育でよく個別最適な学びと協働的な学びという言い方をしますが、個別最適で、その子どもに合った活動場所となると、孤立した学びになる危険性がある。

そこに、みんな繋がってという協働的な学びがあればということで、そのような包括的なものを言う。

特別支援学級が増加している福津市では、大事なことはないかと、学校に行きたがらない子どもがいる実態で、保護者目線では、どのような施策をやることでインクルーシブ教育へ繋がっていくのかなど、色々な意見を出していただきたいと思う。

(増井委員)

日本語教育で取り出し授業をしていることもあり、よく理解した。

取り出すことも大事であり、何かしなければいけないときには戻してみんなと一緒に集団で移動することも大事であると思う。

(伊藤会長)

居場所づくりという意味では、学校での自立支援のための交流学級などがあったり、コミュニティ・スクールの仕組みで、地域の中でも子どもが安心して活動できる場所を確保する視点も必要なのではないかというのがある。

さらには、空間的には家庭に居場所があるかもしれないが、子どもがそこに心の居場所を感じているかというところで、子どもの心の支援が何か必要なのではないかとなったりする。

そのように、これ今課題だよな、これをもっと大事にしたいなど皆様が色々感じている部分を意見として出していただければと思う。

(児島委員)

基本方針2)「教育環境の整備」が、重点目標1「ふるさとを愛し、大切に学ぶの推進」に入っているのはなぜか。重点目標3「誰一人取り残されない学びの環境づくり」の方がじっくりくるのではないか。

施策項目⑤「環境教育の推進」が、重点目標1に入っているのはなぜか。地域の環境について問題にして考えるという意味なのか、基本方針2)「豊かな心の育成」に入るのか。

重点目標2の基本方針1)「意欲的に学ぶ子の育成」、2)「豊かな心の育成」、3)「健やかな体の育成」があり、これまでの学習指導要領では、知徳体、学力と心体であったのが、今回、「意欲」ということをとても大事にしていることがよくわかる。

この意欲というのは、どこにもかかってくると思う。

(伊藤会長)

意欲は基盤なのですべてにかかると。カテゴリーで分けるのは難しい。

国の方向性は、知識・技能統合的理解を主観との表現の総合的発見を具体的に高めた個人の資質能力を目指すとしており、個別のものを一体化したもので示そうとしている。今は、それに逆行してカテゴリーに分けようとしている。

カテゴリーで分けるのは難しいが、特に色濃く見えるのはこの部分という表現になってくるかと思う。

(久壽委員)

施策項目で今まで実施したことがなく、今回初めてあげた施策はあるか。

(原尻理事)

全く実施したことがないわけではないが、今までの計画になかったものは、いくつかある。重点目標3基本方針2)施策項目④貧困対策や⑤ヤングケアラーなど、こども大綱の内容は、今まで教育分野で具体的には示していないものが多い。

他のものもリニューアルしていつている。

(伊藤会長)

③G I G Aスクール構想も今までの計画になく、以前の計画策定段階で存在していなかったものである。

(久壽委員)

継続しているものについては、問題点や、成果・課題を明確にしていけないとP D C Aを回していけないのではないか。

新しいものは、計画にあげて推進していければと思う。

(伊藤会長)

計画に沿って各学校で実施するときP D C Aを回していく仕組みかと思う。

(久壽委員)

学校でP D C Aを回すのはわかるが、教育委員会の計画が高いレベルで策定しない限り、学校もついてこないのではないか。

何かを変えないと成長しないということがあると思う。課題などの現状把握はしているか。

(原尻理事)

具体的なプランとして、福津市学校教育ドリームプランというのがある。これは、より重点的に取り組むもので、今まで実施していなかったが、今年、或いは2、3年は重点的に実施しようというものを示す。

今回策定する次期教育総合計画は、4年間や6年間での目指すところを示すときに、国の学習指導要領や基本計画など統合的に書かれているものは、網羅しているという示し方になっている。

(久壽委員)

教育委員会で、施策項目に対しての課題や問題点の書き出しはしているか。

(原尻理事)

例えば、学校長と今年の重点目標を確認し、それに基づいて各学校が重点的に実施していくことや、グランドデザインで交流していくことは行っている。

(伊藤会長)

地方教育行政の組織および運営に関する法律で決められた点検評価を行っているかと思う。点検評価は、教育委員会事務局が、各施策の目標、成果などを自己点検し、外部から意見をもらい、公表するものである。

教育委員会は、計画のもと点検評価、各学校は、より具体化した学校教育ドリームプランに沿って、実施したことや、子どもの学習状況、アンケート結果などから課題を抽出し、学校長が重点目標を決め、それに向かって各教育活動に取り組み、学校関係者評価しながら、PDCAを回していく。

PDCAは、いくつかの場所ですていく。

昔も今も変わらず必要だよねという項目をあげて、その施策項目に沿って各場所における実態を基に、達成目標や成果目標を決めて実施していくイメージであると思う。

(春田委員)

可能であれば、資料⑤をデータでもらい、自分で組み替えたり、追加したりして、次回持ってきてもよいか。

(伊藤会長)

はい。事務局からデータの送付をお願いしたい。

(原尻理事)

先程の児島委員の質問について、教育環境の面で、誰一人取り残さない環境づくりもあるが、重点目標1にした理由は、学校だけでなく地域なども含めた環境という大きな枠で捉えるイメージで入れたためである。これは、国が示したものから引っ張っている。

色々な意見をいただく中で、重点目標3の方がよいのではないかなど迷った部分ではある。

(伊藤会長)

基本方針に対して、どの施策項目が重要かは、何を大事にするかによって繋がるどころが色々あると思う。

例えば、保幼小の接続と小中一貫教育の推進は、教育環境の整備となっているが、推進するのであれば、意欲的に豊かに学ぶところに繋がるので2番ではないかという考えもある。

施策項目と基本方針を直結するのは中々難しい。施策項目をすることで何を指すかによって結ぶ場所が変わったりする。

委員の皆様は、この施策項目は、ここに繋がるのではないかなど意見をたくさん出してもらい、最終的には、一番わかりやすいところに入れ込もうということになると思う。

先ほどの例でいくと、保幼小の接続と小中一貫教育を整備すること自体が目的であれば、重点目標1の教育環境の整備、それを通して子どもの学びを進めることを目的と考えると重点目標2となるが、それをするためには、環境整備すること自体が大事で、これできていないとなると重点目標1となるので、これには正解はないと思う。

(安徳委員)

重点目標3に、「特別支援教育や課題を抱える子どもへの支援」とあり、既に取り残されているのではないかというイメージに捉えかねないのではないか。

例えば「インクルーシブ教育の推進」や、「課題を抱える子どもの心に寄り添う支援の充実」など、やわらかい表現にした方がよいのではないか。

このような子どもたちやご家庭が、計画を読んだときに、うちは取り残されているのではないかと捉えられないような表現にした方がよいのではないか。

(伊藤会長)

文科省の示し方は、資料のような表現で、未然、防止よりも対処療法的である。見せ方は、聞けば聞くほど難しい。

(中山委員)

学級集団アセスメントとは何か。

(伊藤会長)

学級集団の状況を良く見ておきましょうというもので、状況をよく見ることで、この状態にはこんな支援が必要だとわかり、活用していく。丸く言うと、子どもを良く見ましょうということである。

専門用語なので、わかりやすい書きの方が施策項目に合うのではないかなどといったことに繋がるので質問いただくのも大事である。

(児島委員)

重点目標2基本目標3) 施策項目①「体育・身体活動の推進」は何をイメージしているか。

(伊藤会長)

全国的に、子どもたちの体力テストの点数が下がってきているので、体を動かしましょうということではないか。

(増井委員)

スポーツ活動の活性化は色々なところがあり、すみ分けはどうなっているか。

(伊藤会長)

重点目標4基本方針1)は、生涯教育や社会教育で、重点目標2基本方針3)は、主に学校教育ではないか。

重点目標1基本方針1)施策項目⑥に中学校部活動もあるが、綺麗に分類するのは難しい。

強調したい、色濃く出るのはどこか表すしかないのではないだろうか。

(増井委員)

身体活動を体力測定と具体的にするのはどうか。

(伊藤会長)

体力測定は、どちらかという現状把握で、測定した結果を基に、何をするかが大事である。

体育・身体活動では、抽象的でわかりにくいので具体化しようという視点はいるだろう。

(安徳委員)

計画に、0～2歳期の発達支援の推進や、3歳から就学までの幼児教育・発達支援の推進も含めることができるのか。

(伊藤会長)

入れるべきだと思う。

教育大綱は0歳から大人までが対象であり、計画も同じように対象となっていなければならないだろう。

(安徳委員)

子育て環境も変化してきており、そこでの体験や、育ち、食事など、施策項目の下に具体的な活動があるということか。

(伊藤会長)

具体的な活動がイメージできそうな施策項目がより良いと思う。

全体的に、今後考えるべきことは、まず、施策項目は、具体のどういうところに繋がるか。それを含め、施策項目の名称や、新たに施策項目を追加するかを検討することが必要である。

また、重点目標、基本方針の関係性による分け方、基本方針と施策項目の繋がりも検討する必要がある。

色々なところにかかわってくるので線引きすることは中々難しいが、特徴的に見えるのはこの部分という表現になってくると思う。

次回の会議までに、これらのことを持ち帰って、周りの方々と共有や情報交換してもらい、より良いものが出来上がっていくとよいと思う。

(吉住委員)

ワンヘルス教育についての記述がないのはあえてか。

重点目標1基本方針2)施策項目①の「小中一貫教育の推進」は、小中一貫校にするという意味か。

0歳から大人までを対象としている教育大綱を受けて、具体化していく計画では、同

じ様に大人までを対象とするか。子どもも大人も共に学ぶということで、重点目標4が引っかかっている。

(伊藤会長)

先ほど、基本目標についての審議で、委員の皆様が案2を選んだように、子どもも大人もみんなで創るということなので、0歳から大人までを対象とした方がよいと思う。重点目標4は、重要と考える。コミュニティ・スクールの仕組みもまさにみんなでということなので福津らしさを出すにはぜひ入れた方がよいのではないかな。

ワンヘルスは手段であり、それを通して子どもの探究的学びの質を上げようというのが目的である。計画には、探究的な学習の推進や、環境教育の推進とあるので、ワンヘルスは、学校レベルや、市レベルではドリームプランに落とす方がよいと思う。個別の名称がすでにたくさんあるので、あまり出さない方がよいのではないかな。

「小中一貫教育」については、「小中一貫した教育の推進」としてはどうか。次期学習指導要領は、幼児から小中高までの縦の系統性をかなり重視して出しているもので、小中連携とするのは弱いと思う。

一通り、質問や意見していただいたが、アントレプレナーシップ教育について、どう思われるか。

(久壽委員)

創造性をもって、個性を伸ばすことが必要だと思う。日本の教育はどうしても普通になってしまい、他国に比べると自由な教育が少ないと思う。

これは、探究的な教育や、意欲的に学ぶ子の育成に含まれるのか。

(伊藤会長)

個別最適な学びと協働的な学びという文脈で表現するのがよいのではないかな。

(久壽委員)

施策項目は、色々なことに関連しており、綺麗に分けてしまう必要はないと思う。

これを具体化して、各々の課題として持つことが大事であり、この表を作るのが目的ではない。

(伊藤会長)

基本方針と施策項目を線で結んだら面白いかもしれない。

普通の線と、色濃く出るところは太い線などで、たくさん線を引けるのが、福津市らしいという見せ方も良いのかもしれない。

時間となったため、閉会したいと思います。

本日は、色々な考える視点を共有できた。次回は、これらの意見を踏まえて、こういうのがある、こんなふうに線がいっぱい書ける、それを考えたらこれもいるなど自由に意見を出してもらいたいと考える。

4. 閉会行事

(佐々木課長)

次回は、7月後半を予定しており、改めて日程調整する。

資料⑤のデータ送付を希望する委員の方は、閉会後に教えていただきたい。